

| | | |
|---|-------------|-----|
| 科目名称： | 音楽表現指導法実習 I | |
| 担当者名： | 朝倉 喜裕、水上 和子 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| 音楽表現実習（インターンシップ）として保育・幼児教育の現場観察と現場指導の下で、指導案を基に表現への練習を重ねつつ、音楽活用の現状を知り、新たな表現を模索し、表現の実践を試みる。基本的には履修者を1講時と2講時の2つグループに分割し、音楽表現指導法 I と入れ替えにして行う。現場訪問を2講時中心に行うため、週によって1・2講時を入れ替え調整を図る。主な訪問園は、附属西南幼稚園と蝶屋こども園等近隣の保育現場を中心に展開する。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| 自身の力で的確な指導案を仕上げる事が出来ることと、それに沿って十分な表現を展開する技能の向上を目指す。 | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP (1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP (2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | |
| DP (3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP (4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | ○ |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP (1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (2) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (4) | | | 40 | 60 | 100 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|------------|
| あり | 《内容1》 水上和子-附属幼稚園園長補佐 | 《経験年数1》 3年 |
| | 《内容2》 | 《経験年数2》 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|----------|-------|-------|----|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間（分） |
|---|--------------------|-------------|
| 第1回 授業の展開説明と、前期の学修予定を中心としてガイダンス並びに次週からのグループ分けを行う。 | シラバスの熟読 | 30分 |
| 第2回 現場研究と目標のグループ研究 | 保育実践対象園の確認と事前情報収集 | 30分 |
| 第3回 現場における表現実践への指導内容の検討と指導案の検討と作成 | 保育実践演習の検討と指導案研究 | 40分 |
| 第4回 外部講師によるパネルシアター講習 | 自身制作のパネルシアターのチェック | 30分 |
| 第5回 現場訪問～見学～観察～現場保育者の指導と意見交換 | 現場訪問の準備と質問内容の整理 | 40分 |
| 第6回 " 1 講時目は継続学習、2 講時目は現場へ | 前回の検討・研究事項の確認 | 40分 |
| 第7回 " 1 講時目は継続学習、2 講時目は現場へ | 前回の検討・研究事項の確認 | 40分 |
| 第8回 現場訪問反省会 | 現場実践演習の反省のまとめと提出準備 | 60分 |
| 第9回 " 1 講時目は継続学習、2 講時目は現場へ | 前回の検討・研究事項の確認 | 60分 |
| 第10回 " 1 講時目は継続学習、2 講時目は現場へ | 前回の検討・研究事項の確認 | 60分 |
| 第11回 現場訪問反省会 | 現場実践演習の反省のまとめと提出準備 | 60分 |
| 第12回 子ども園見学訪問 | 見学子ども園の事前情報確認 | 40分 |
| 第13回 子ども園見学訪問 | 見学子ども園の事前情報確認 | 40分 |
| 第14回 前期現場実践演習と見学訪問の意見交換会とまとめ | 訪問データやまとめの整理 | 60分 |
| 第15回 見学訪問意見交換会とまとめ | 訪問データやまとめの整理 | 60分 |

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの保育実践演習の内容研究と保育実践指導案をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
保育現場実践演習の指導内容と指導案及び見学訪問のまとめにて評価 実践演習と指導案60% 見学のまとめ40%

課題に対するフィードバック

指導案及びまとめはチェックして返却。現場での感想及び反省会にて内容の指導を行う

教科書・参考書

学科仕様の指導案用紙を使用する。